

# 近代英語協会第25回大会

—— シンポジウム・研究発表 ——

日 時：2008年5月23日（金）

会 場：広島女学院大学（人文館 303 教室 3 階）

〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1

TEL：082-228-0386（総合案内）



- \* タクシーご利用の場合、小型タクシーで1,050円程度。運転手に「山越えて女学院大学まで」と教えてください。お帰りは、「つばめタクシー」(082-221-1955)のご利用が便利です(最後のページにも記載しておりますのでご参照下さい)。
- \* アクセス方法につきましては、下記の大学HPもご参照下さい。  
(<http://www.hju.ac.jp/access/index.html>)

近代英語協会事務局

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学 G901 秋元実治研究室内

## 「中英語と近代英語の接続について」

司会：橋 本 功（信州大学教授）  
講師：大 野 英 志（倉敷芸術科学大学准教授）  
児 馬 修（慶應義塾大学教授）  
大 門 正 幸（中部大学教授）  
八木橋 宏 勇（杏林大学助教）

### 「はじめに」

信州大学教授 橋 本 功

英語史を学ぶ者にとって英語史上の時代区分は史的变化の目印となる便利でかつ重要な区分である。しかし、従来の区分は言語データよりも、主要な社会変革や後に言語変化を促す出来事が起こった年や時期に負うところが大きい。このような区分の仕方は恣意的であり、区分された期間の言語が均一であると思わせる危険性があると主張する研究者もいる。本シンポジウムでは、言語データから見た中英語と近代英語の区分と連続性について議論をすると共に、認知言語学の観点からも考察を試みる。

### 「非人称構文の変遷から見た中英語と近代英語の接続」

倉敷芸術科学大学准教授 大 野 英 志

非人称構文の大部分は、14世紀前半より始まった動詞の廃語や人称構文への推移等により、一部の動詞を除いて見られなくなった。本発表では、まず、先行研究に基づき、様々な動詞について非人称構文の史的变化を概観する。その後、15世紀初めの写本により編集された Benson 版に基づき Chaucer における用法を、そして *The Canterbury Tales* の15世紀の諸写本間の異同を調査し、同一文脈での動詞に対する使用者（= 写字生）の姿勢を明らかにする。この分析データを基に言語変化と時代区分について述べる。

## 「中英語と近代英語の区分に関する統語論的根拠」

慶応義塾大学教授 児馬 修

古英語の「豊富な」屈折が中英語期に「水平化され」、それがさらに（初期）近代英語期に「消失した」というのが英語史の大まかな流れであり、この「屈折」に基づく3期の区分は多くの英語史研究者によって「便利な」区分として受け入れられてきた。ただ、その屈折の衰退後に生じた多くの統語変化は中英語期—初期近代英語期の2期に渡って起こったものであって、その2期を区分する「統語」に基づく明確な根拠は知られていない。本発表では、屈折の衰退に伴って生じたと考えられる統語変化の中で、1500年周辺を境にして、その前後に起こった変化に何か特徴的な相違点が見出せるかどうかという点について考えてみたい。

## 「統語的变化を中心に見た中英語と近代英語の接続」

中部大学教授 大門 正 幸

本発表では、中英語と初期近代英語を明確に区分する根拠となるような証拠が得られるか否かという点について、語順の変化、冠詞の発達、虚辞要素の発達、動名詞の発達といった、様々な統語現象に焦点を当てて考察する。また、考察にあたっては、個々の構文を扱った個別研究の成果を寄せ集めるのではなく、中英語のコーパスとして Penn-Helsinki Parsed Corpus of Middle English (2nd Edition) を、初期近代英語のコーパスとして Penn-Helsinki Parsed Corpus of Early Modern English を使用し、複数の統語現象を分析する際に標識付きコーパスが大変有効なツールになることを示したい。

## 「言語変化と認知言語学」

杏林大学助教 八木橋 宏 勇

言語現象は人間の一般認知能力が発現されたものであり、人間の認知的な営みによって動機づけられたものであると捉えるのが認知言語学の考え方である。つまり認知言語学は、言語現象を記述するだけにとどまらず、人間の一般認知能力およびそれによって出来る言語主体の認知そのものが言語構造にいかにか反映されているのか、ということを追求している言語理論である。本発表では、特に Langacker が提唱する認知文法の枠組みで統語現象を中心に考察し、これまで主に共時的な研究を積み重ねてきた認知言語学が言語変化をどのように説明できるのか、その可能性を探りたい。

## Theory and practise in English historical sociolinguistics

Terttu Nevalainen, *University of Helsinki*

Sociolinguistics was introduced into English historical linguistics in the early 1980s. The foundations for the new field of research were laid by Suzanne Romaine, who in her *Socio-historical linguistics* (1982) applied sociolinguistic techniques to the study of relativization in mid-sixteenth century Scots. In Romaine's study, stylistic stratification emerged as a major factor in language maintenance and shift. In the 1990s, historical sociolinguists' research agenda diversified to comprise a wide range of issues including social and regional embedding in linguistic variation and change. Connecting linguistic and external variation, English historical sociolinguistics now works in tandem with historical dialectology, and extends into socio-pragmatics (Nevalainen & Raumolin-Brunberg 2003, Nevala 2004) .

Historical sociolinguistics is an interdisciplinary field of study that uses corpus-linguistic methods. It stands at the intersection of modern sociolinguistics and social history, on the one hand, and historical linguistics and philology, on the other. One of the challenges to many of us working in this field is to account for long-term processes of linguistic change in their social context, with the aim of producing baseline data of different kinds of changes in progress. This baseline information is also invaluable for other fields of enquiry, ranging from the appreciation of literary texts and idiolects to theoretical approaches of linguistic change.

### References

- Nevala, M. (2004) . *Address in Early English Correspondence*. Helsinki: Société Néophilologique.  
Nevalainen, T. & H. Raumolin-Brunberg (2003) . *Historical Sociolinguistics*. London: Pearson Education.  
Romaine, S. (1982) . *Socio-historical Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.

(本特別講演は、日本学術振興会外国人招へい研究者（短期）事業の一環です。)

## 1. 英語史における名詞句内要素の統語位置

名古屋大学大学院 茨木 正志郎

本発表では YCOE、PPCME2、PPCEME の三つの史的コーパスを利用して、英語史における名詞句内の要素の語順を調査する。そしてその調査の結果に基づいて、最近のミニマリスト・プログラムの枠組みにおいて名詞句の統語構造を明らかにする。その際、前限定詞、中央限定詞、後限定詞、形容詞の名詞句内での振る舞いに焦点を当て、初期の英語の名詞句内の語順は現代英語と基本的には同じことを主張する。現代英語と唯一異なるのは、所有代名詞の振る舞いであり、他の名詞句内の要素とは異なり名詞句内の様々な位置に自由に現れることが可能であった。古英語期の所有代名詞は形容詞と同じ振る舞いをしていたが、時代と共に次第に中央限定詞へと文法化されたと主張する。

## 2. 理由節の接続様式の歴史：because 節を一例に

東京海洋大学非常勤講師 東 泉 裕 子

本発表では because 節の接続様式の拡張過程を検討する。because 節は理由を表す従属節と呼ばれることが多いが、現代語には必ずしもそうとは言えない用例もある。東泉（2006）では、そのような現代語の用例が現れるに至る過程を調査し、従属節から非従属節（独立説）へ拡張する傾向があることを指摘した。本発表では、非従属節の用例が現れ始めた段階の様々な用例を記述し、従属節から非従属節への拡張過程をさらに詳しく観察するとともに、拡張の動機付けや要因を探る。また、英語、ドイツ語、日本語、韓国語にも従属節から非従属節への拡張がみられる理由節があることを報告し、理由節の拡張の方向性についても再検討したい。

## 1. Jane Austen の作品中における進行形: 動詞タイプの考察

兵庫県立兵庫高等学校教諭 坂東 洋子

進行形 ‘be+Ving’ の起源は OE まで遡るとされるが、Strang (1982) によると文法的使用法が確立されたのは 1700 年以降である。18 世紀末から 19 世紀にかけてその頻度が突然増加した。Jane Austen の前期 3 作品は 1797 年までに書かれ、後期 3 作品は 1811 年以降に書かれた。彼女の執筆時期は進行形の頻度数増加の時期と重なる。

本研究では Austen の 6 作品に生起する進行形となる動詞を調査した。前期作品と比べ後期作品では進行形の生起数、頻度ともに増加している。18 世紀においては進行形になるのは行為動詞であったが、Austen においては動詞の範囲が広がり、進行形の主な機能が 18 世紀のもととは変わったことについて述べたい。

## 英文法を探る

広島大学名誉教授 安藤貞雄

語法研究の目的は、新しい表現の発見にあるとする人がいる。それだけでは、足りない。それは説明され、究極的には体系化されなければならない。

英文法のいくつかの問題を考察してみたい。たとえば、次のごときものである。

- (1) a. It is I she loves.
- b. It's me she loves.

(1b) の *me* は、統語的には *object territory*, 文体的には *informal* と普通説明される。しかし、(2) はこの観点からは説明できない。

- (2) This one here is *me/\*I* at the age of 12.

次のような “violin-sonata paradox” なるものは、存在するのか？

- (3) a. [Which violin] is *this sonata* easy to play on?
- b. \*[Which sonata] is *this violin* easy to play on?

(4a) では、*it* を付けると非文になるが、(4b) のように *for me* を挿入すると文法的な文になる。それは、なぜか。また、(4) の2つの文は同義なのか。

- (4) a. This problem is too difficult *to solve/\*solve it*.
- b. This problem is too difficult *for me to solve/solve it*.

## 広島女学院大学へのアクセス

- JR 広島駅新幹線北口にタクシー乗り場があります。運転手に「山越えで女学院大学まで」と告げてください。附属の中・高等部がありますので。大学の正門に到着後、守衛さんに「人文館は」と尋ねれば、誘導して人文館に横付けしてくれます。およそ、1,050 円でいきます。
- お帰りの際は、「つばめタクシー」のご利用が便利です。 082-221-1955。  
お迎えの料金は無料です。
- バスをご利用される方は、時刻表を当日受付でご用意しておきます。

## 昼食について

- 大会当日は、平日のため学食や売店は混雑が予想されます。各自ご準備いただくことをお勧めいたします。

## 当日の会場のご変更について

- 会場は「人文館 303 教室」を予定しておりますが、当日変更になる場合がございます。その場合には、大学正門付近に立て看板でお知らせいたしますので、ご注意ください。ご面倒をお掛けしますが、よろしく願いいたします。